

第6次鴻巣市総合振興計画 基本構想（素案）意見公募の要旨

（※ 表現・文言追加・削除といったご意見は要旨であるため、恐れ入りますが省略させていただきます。）

No	該当箇所	意見の要旨	市の考え方
1	全体	<p>基本構想のスパンが10年では短すぎる。30年~50年先を見据えた壮大な計画を打ち出す必要がある。</p> <p>その為に第5次総合振興計画の総括（駅前再開発、総合病院誘致などの失敗）が必要であり、政策決定過程の透明化を図るよう。</p>	<p>超長期のビジョンも必要ですが、ある程度の具体性も考慮した場合には、10年間という期間が妥当と考えています。</p> <p>第5次総合振興計画の総括は、計画期間終了後の平成29年度に予定していますが、進行管理の中で浮き彫りとなった課題を第6次総合振興計画に反映させるよう努めていきます。</p>
2	土地利用構想	<p>荒川左岸道路の用地確保及び上下水道が完備された所については舗装等の工事を早く完了させ、通行可能な道路として利用したい。県道さいたま鴻巣線への接続を早急に進めて頂き、鴻巣駅西口を活気ある地域として利用したい。</p>	<p>市としてもこの路線の重要性は認識しており、基本計画における「道路施策」の中で、「幹線道路の整備」を位置づけし、積極的に推進していく予定です。</p> <p>道路行政の早期完了と、都市計画行政の課題として「賑わい向上」の検討に努めていきます。</p>
3	全体	<p>今回の改定で、現在社会の課題の把握が少し甘いような気がします。人口減少社会に向けて国がかまびすしく言う、地方創生、しごと・地域掘り起し、また1億総活躍社会・女性活躍社会などへの対応・向き合い方があまり感じられませんでした。</p> <p>（その他具体的表現への意見については、省略。）</p>	<p>市としても国の政策と連動した取組は、市の課題解決においても重要と考えています。</p> <p>更に問題の掘り起こしに努め、市に真に必要な観点を見定め、計画への反映に努めていきます。</p>
4	全体	<p>「土地利用構想」を中心に、色弱者には見えづらい色を使っている。十分配慮して欲しい。</p>	<p>色弱者に配慮した色使いとします。</p>
5	土地利用構想	<p>田園など緑地からの冷風を住宅地に有効に導入する「風の道」を確保する。住宅地ゾーンに、住宅を密集させず、川、田園、街路、などの隙間空間を確保する。</p>	<p>公共空地などの確保など、低密度な住宅地形成は進めているところですが、都市計画行政における将来への検討課題とさせていただきます。</p>
	土地利用構想	<p>熊谷市、行田市と連携して、行田駅周辺に病院や物産店や教育、市民食堂など複合コミュニティゾーンをつくる。</p>	<p>他市との協調の兼ね合いもありますので、将来への検討課題とさせていただきます。</p>

	安全・安心分野	「高齢者など自力で避難所へ移動が困難な住民のケア」、「都内など遠方への通勤通学する住民のケア（都内に一時待機所の設立、家族との情報交換手段の確立）」の視点を加えるべき	市としても必要な視点として認識しており、基本計画における「地域福祉施策」の中で、「安心して生活が出来る環境づくり」として、緊急時・危機時の体制強化は位置づける予定です。
	保健・福祉・医療分野	大宮日赤、北里メディカルセンターと同レベルの総合病院の設立。	市としても重要な課題として認識しており、基本計画における「健康づくり施策」の中で「地域医療提供体制の整備」を位置づける予定です。 今後とも実現に向け、多角的に検証を進めていきます。
6	土地利用構想	赤見台近隣公園を、公園・緑地ゾーンに戻すことは必ず実現させてください。	総合振興計画審議会での答申なども考慮し、引き続き土地利用構想の検討を進めていきます。
7	全般	住みやすい、安全・安心なまちづくり、市民が将来に夢を抱けるまちづくりに賛同。但し基本構想を見た限り、明確に見えてこないが。 鴻巣市の歴史的価値を認識し、当市だけでない周辺自治体と協調・連携した活動が有効であり、県をも越えた「歴史・文化」の情報発信と、海外客の取り込みなどグローバル化の視点を加えていくなどした、『賑わいと魅力ある街づくり』を提案したい。	市としても必要な視点であると認識しており、基本計画における「市民文化・生涯学習施策」及び「観光施策」の中で、考え方を盛り込む予定です。 他市・他地域と連携したPRを積極的に進め、地域愛着の醸成や交流人口増加などに結びつけていきます。
8	土地利用構想	赤見台近隣公園を「公園・緑地ゾーン」に戻すだけでは不適當。 議会答弁にある「平成26年3月の見直し前の公園・緑地ゾーンに戻す」という表現を明記するようにしてください。	市では、現在の置かれている状況と再検証の結果より、本計画では赤見台近隣公園を「公園・緑地ゾーン」として、再設定することを、素案として提示いたしました。 ご意見の表現明記については、本計画を初見でも理解できるよう策定を進めており、「●●に戻す」といった振り返りは記載致しかねる点をご理解願います。
9	全般	北本駅に近く、市内人口増加率が高いと思われる小松・松原地区において「荒川左岸通線」の整備は必要不可欠であり、延伸の遅れは小松・松原地区の発展の遅れに繋がっていると考えます。 鴻巣市の中心地から離れているが、もっと目を向けていただき、住宅地に相応しい道路整備や開発を行って欲しい。	市としても当該路線の重要性は認識しており、基本計画における「道路施策」の中で、「幹線道路の整備」を位置づけし、推進していく予定です。 道路行政として早期完了と、都市計画行政の課題として良好な住宅地形成の検討に努めます。

10	将来人口	<p>鴻巣の人口増加を望むことは困難である。ベットタウンとして増加した際の世代の第2世代が時代の中心の中、鴻巣へ魅力がないので人口流出している。</p> <p>産科・小児科の病院・保育園が近くにないことが、一つの要因であるので、早期の誘致を望む。</p>	<p>市としても、平成27年の社会人口が増加した結果からも、ニーズ・条件に合った住環境を整えられた場合、向上の余地はあるものと認識しています。</p> <p>ご意見の産科・小児科なども重要なニーズであり、基本計画における「健康づくり施策」の中で「地域医療提供体制の整備」を位置づけ、積極的な検討・取組に努める予定です。</p>
	土地利用構想	赤見台近隣公園の「公園・緑地ゾーン」の永久存続を望む。	総合振興計画審議会での答申なども考慮し、引き続き土地利用構想の検討を進めていきます。
		第3回目の総合病院誘致計画は、国・県の医療行政を踏まえると、実現困難と考える。したがって、複数の病院が集まれる「コンドミニアム病院」の場所を提供し、周りに福祉施設をドッキングした、土地提供構想を望む。	基本計画における「健康づくり施策」の中で「地域医療提供体制の整備」において、市全体及び当該地域に必要な検討・取組に努める予定です。
		分断した地理形状解消のため、高崎線・国道に立体交差、元荒川に橋の増設を求む。	費用対効果などを含め、道路行政の将来への検討課題とさせていただきます。
		鉄道は高崎線1本であり、不通の場合に支障が大きい。通勤快速の増加と不通にならない高崎線の形成が必要。併せて上尾道路の早期開通を望む。	現在も、東日本旅客鉄道㈱に対する要望は続けていますが、引き続き積極的な改善を求めています。
		道の駅については、考えすぎるとつまらない道の駅になる、早急に、魅力ある道の駅を望む。	市としても、農業振興・産業振興の柱のひとつとして「道の駅」の必要性を認識しており、「交流・産業ゾーン」の核施設として、魅力的な施設となるよう、早期実現に向け取り組みます。
		国道を走っていて鴻巣市内（吹上除く）に入ったとたん暗くなる。魅力ある街、活気ある街の形成を望む。	17号沿いなどの幹線道路沿いは、まちの賑わい・生活利便性の土台ともいえるエリアであり、「沿道サービス地ゾーン」が、より魅力的になるよう、施設の立地を誘導できるよう努めていきます。
11	将来都市像	<p>「花と緑と人の絆に癒されるまち こうのす」に替えることを主張する。第5次総合振興計画のキャッチコピーであり、人口減少に歯止めが利かない現状の中、人の輝きが前面でなく、心に訴えることが肝要ではないか。</p>	総合振興計画審議会での答申なども考慮し、検討を進めていきます。

将来人口	<p>「5次総合振興計画の12万の人口目標が間違えであった」との総括を行うことが肝要であり、今回の112,700人も総括がないと、結果が乖離することが想定される。</p> <p>人口減少問題は対処療法が無いが、若い子育て世帯が住みたい街に環境整備して、住環境等を特化する対策が整い、周辺市町村より住みやすい街になることは、不可能では無い。</p>	<p>ご指摘の点は、市でも真摯に検証したポイントであり、その結果として、今回の目標の素案を示したものです。</p> <p>ご意見のとおり、人口数は一朝一夕に改善されるものでなく、今回の目標も「努力することで、達成が不可能では無い」と想定する目標値を示したものです。</p> <p>目標実現のために、PDCAサイクルにおける効果検証と改善を更に強化し、達成に向け尽力していきたいと考えます。</p>
土地利用構 想	<p>沿道サービス地（検討）ゾーンは、面的整備は当然であるが、上尾道路の通過交通をどう取り込むかが重要である。</p> <p>旧市街地を活性化させるために、鴻巣市道の導流アクセス整備により、中山道宿場町として栄えたように「物流ネットワーク」のトランスポートの通過地点を位置づけられないか。</p>	<p>ご意見も含め、「沿道サービス地（検討）ゾーン」が、より市にとって有益になる姿を多角的に検証していきます。</p>
	<p>公園緑地ゾーンについて、周辺に比べ公園緑地率に乏しい鴻巣市において、赤見台近隣公園は都市計画法の近隣公園であることを今後とも宣言しなくてはならない。</p>	<p>市でも赤見台近隣公園を含め、公園・緑地面積の底上げの重要性は認識しており、基本計画における「公園・緑施策」の中で、「緑の創出」を位置づけし、推進していく予定です。</p> <p>本素案では、現在の置かれている状況と再検証の結果より、赤見台近隣公園を「公園・緑地ゾーン」として再設定することを提示しており、原則保全に努めていきます。</p>
	<p>工業・流通地ゾーンについて、5次総合振興計画で位置づけられた常光地区について、行政界付近の土地利用に関しては、鴻巣市独自の方針ではなく、広域市町村連携で事業を進捗しなければならないはずであり、線引きを含めた対応も検討する必要がある。</p>	<p>線引きの決定権者が「埼玉県」でもあり、既成市街地以外の新規企業立地の実現には制約が大きいことが課題となっています。</p> <p>本素案では、現在の置かれている状況と再検証の結果より、優先性の高いエリアを絞り、新規企業立地を促進していきたいと考え、常光地区については除くことを提示しました。</p> <p>ご意見は重要な視点であり、県・近隣市とも調整を行い、実現可能性が見えた際には、適宜、土地利用構想の見直しも検討したいと考えています。</p>

	政策の展開全般	<p>将来都市像、将来人口、土地利用構想の実現と、6つの政策が噛み合っていない。また「将来人口」で何を主張したいのか、垣間見ることができない。</p> <p>「将来人口の実現」とは何なのか、打開策を施策で提示すべきである。</p>	<p>今回は素案として概要を示し「市民の皆さんが求める、市の目指すべき将来展望」を率直にお伺いしたい趣旨から、資料を端的に整理しております。</p> <p>第6次総合振興計画では、「人口減少社会に対する抑制と適応」を重視しており、基本計画の中で、より具体的な施策を提示する予定です。</p>
	政策の展開安全・安心	<p>上水道の安定供給に、災害時の体制強化の視点、おいしい水の視点を加えるべき。</p>	<p>基本計画における「上水道施策」の中で、「安定した水道水の供給」及び「安全な水道水の供給」を位置づけし、推進していく予定です。</p> <p>「防災・減災施策」とも連動し、水道行政として更なる向上に努めます。</p>
	政策の展開保健・福祉・医療	<p>医師会の連携協働を加えるべき</p>	<p>基本計画における「健康づくり施策」「地域福祉施策」などの中で、医師会との連携協働を位置づけ、積極的に取り組む予定です。</p>
	政策の展開都市基盤	<p>公園・緑の整備と保全については、鴻巣市の公園の整備状況は他市と比べて極めて低い。総合公園・地区公園の公園計画が必要。</p> <p>登録保護樹木の整備について、樹齢・樹高などのリストを作成し、次世代に継承する必要がある。</p>	<p>市としても公園・緑地面積の底上げの重要性は認識しており、本計画でも基本計画における「公園・緑施策」の中で、「緑の創出」を位置づけし、推進していく予定です。</p> <p>樹木保全については、施策実現手段として、検討を進めていきます。</p>
12	土地利用構想	<p>第5次総合振興計画にて公園緑地ゾーンであった赤見台近隣公園について、H26.3の基本構想見直しにて、医療・福祉・産業集積地ゾーンに変えられた。総合振興計画における「土地利用構想」がいつも簡単に変更されてしまうのでは、総合振興計画が最上位計画と謳っていつている意味がない。</p> <p>今回戻った「公園・緑地ゾーン」の位置づけが再び変更されることの無い様、明文化して下さい。</p>	<p>本素案では、現在の置かれている状況と再検証の結果より、赤見台近隣公園を「公園・緑地ゾーン」として再設定することを提示しており、原則保全に努めていきます。</p> <p>但し、計画執行においては、時代背景・市民ニーズなどに合わせ、適切な変更も必要と認識しております。総合振興計画という最上位計画の変更が生じる場合については、当然市民の皆さまの意見の集約と、行政としての責務を十分に検討し、適宜・適切な処理を行い、対応していきます。</p>